

国士舘大学審査学位論文

「博士学位請求論文の内容の要旨及び審査結果の要旨」

「小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究－リズムアップ助走を中心とした授業実践を通して－」

陳 洋明

氏 名	陳 洋明
学 位 の 種 類	博士（体育科学）
報 告 番 号	乙 第 4 2 号
学位授与年月日	平成 2 9 年 3 月 2 0 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究 ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー
論 文 審 査 委 員	（主査）教 授 池田 延行 （副査）教 授 田原 淳子 （副査）教 授 近藤 智靖（日本体育大学児童スポーツ教育学部）

博士論文の要旨

小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究
ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー

陳 洋明

論文の和文概要

氏名	陳 洋明
学位論文題目	小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究 ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー
<p>本研究の目的は、以下の2点である。</p> <p>① 小学校高学年（「走り幅跳び」）、中学年（「幅跳び」）、低学年（「幅跳び遊び」）を対象として、発達段階に応じた授業づくりを行い、授業実践を通してその成果を明らかにすること。</p> <p>② 高学年、中学年、低学年それぞれの授業実践から得られた成果を手がかりに、小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容（技能の内容）をより明確にし、体系的に提示すること。</p> <p>小学校高学年を対象とした研究における対象者は、小学校5年生（男子52名、女子38名）と小学校6年生（男子31名、女子40名）である。全6時間の授業において、走り幅跳びの助走局面に着目した「リズムアップ幅跳び」を主教材として実施した。児童の走り幅跳びの技能は、走り幅跳びの観測的評価基準を用いて評価した。</p> <p>小学校中学年を対象とした研究における対象者は、小学校3年生46名（男子23名、女子23名）と4年生50名（男子19名、女子31名）である。全6時間の授業において、「リズムアップ幅跳び」の9歩助走を主教材として実践した。児童の幅跳びの技能は、観測的評価基準と両足着地に関する評価表を用いて評価した。</p> <p>小学校低学年を対象とした研究における対象者は、小学校2年生59名（男子29名、女子30名）である。単元は全5時間で構成し、授業では、「助走のリズム」及び「両足着地」の指導と「幅跳び遊び」に関するゲームを実践した。児童の技能の変化は、観測的評価法を用いて明らかにした。</p> <p>また、走り幅跳びの多様な実践方法として、陸上運動領域における2種競技の実践としての走り幅跳びの指導の在り方を検討した。対象者は、小学校5年生91名（男子50名、女子41名）である。単元は全7時間で構成し、授業の前半において走り幅跳びの学習を、後半において投運動の学習を実施した。走り幅跳びの学習では、「リズムアップ幅跳び」を主教材として実践した。投運動の学習では、投動作を改善するためのいくつかの教材を実践した。</p> <p>さらに、本研究の走り幅跳びの主教材である「リズムアップ幅跳び」の成果を縦断的に検討し、小学校体育における走り幅跳び指導に関する新たな知見を得た。対象者は、3年間（4年生～6年生）において、走り幅跳びの授業を実践した小学生29名（男子16名、女子13名）である。単元は6時間もしくは7時間で構成し（5年生では投運動の学習と並行して実践）、授業では主教材として助走技術の習得に着目した「リズムアップ幅跳び」を実践した。</p> <p>以上の実践を通して、以下のことが明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校体育における走り幅跳びに関する指導では、低学年の時期から走り幅跳びの技能の習得につながる基礎的な動きづくりを取り上げ、段階的に指導していくことが重要である。 2. 小学校中学年および高学年の幅跳び・走り幅跳びの指導では、助走局面において最後の5歩でリズムアップすることをねらいとした「リズムアップ幅跳び」を中心的な教材として取り上げることが望ましい。 3. 小学校段階における幅跳び・走り幅跳びの授業では、助走に焦点を当てた授業づくりをすることが重要であり、児童がそれぞれの能力に応じた助走歩数を選択できるように指導することが望ましい。 4. 小学校段階における幅跳び・走り幅跳びの授業では、「両足で着地すること」に加え、「両足をそろえて着地する」技術を指導することが重要である。また、着地の指導は、低学年の段階から積極的に行う必要がある。 <p>以上のことから、小学校体育における走り幅跳び指導では、発達段階に応じて、主に助走局面と着地局面の技能向上に着目した授業づくりを行うことが望ましいと考えられる。また、小学校高学年段階では、走り幅跳びを単独で実践するだけでなく、2種競技の種目として走り幅跳びを実践し、柔軟に指導することも可能である。</p>	

論文の英文概要

Name	Yomei Chin
Title	Systematization of instructions for teaching the long jump in elementary school physical education classes: Practice focusing mainly on the rhythm up approach run
<p>(Abstract)</p> <p>This study had two aims: (1) Design separate classes for teaching the long jump for elementary school students in the upper grades (fifth and sixth), middle grades (third and fourth), and lower grade (second), and clarify the results of the design of these long jump classes through class practice; and (2) Based on the results obtained from separate class practices, better clarify the aspects of necessary skills for teaching the long jump in elementary school physical education, and show this systematically.</p> <p>In the upper grades studied, there were 90 fifth-graders (52 boys and 38 girls) and 71 sixth-graders (31 boys and 40 girls). In teaching of a six-class unit of six classes, “the rhythm up long jump” focused on the approach phase of the jump. The children’s skill was analyzed using observational criteria of the long jump.</p> <p>In the middle grades studied, there were 46 third-graders (23 boys and 23 girls) and 50 fourth-graders (19 boys and 31 girls). In teaching of a six-class unit of six classes, “the rhythm up long jump” (nine-stride approach) was the main focus of teaching. Skill was also evaluated using observational criteria of the long jump, in addition to an evaluation table focused on landing with both legs.</p> <p>In the lowest grade studied, there were 59 second-graders (29 boys and 30 girls). Long jump was taught in a total of five classes. Instruction mainly focused on the “rhythmic approach” and landing with both feet. Classes also included games involving the long jump. Changes in children’s skills were observed and evaluated.</p> <p>In addition to the various practice methods of the long jump, long jump instruction as the practice of two types of events in a track-and-field class was examined. A total of 91 fifth-graders (50 boys and 41 girls) participated in this portion of the study. This unit comprised seven 45-minute classes. In the first part of each class, the children were taught how to perform the long jump, and in the second part they were taught how to throw. Here, too, “the rhythm up long jump” was the main focus of teaching. Throwing was taught using a variety of teaching materials aimed at improving throwing technique.</p> <p>The longitudinal result of the rhythm up long jump, which was the main teaching focus in this study, was also examined. Participants were 29 children (16 boys, 13 girls) who learned long jump in physical education classes taken over the 3-year period from grades 4 to 6. Teaching comprised six or seven classes in total (fifth-graders were taught in parallel with throwing lessons).</p> <p>The practice sessions yielded a number of clarifying findings. First, it was important that basic long jump instruction started in the lower grades of elementary school physical education and targeted basic movement to lead to skill acquisition. Second, for instruction in the middle and upper grades, it was preferable to focus teaching on the rhythm up approach. Third, class design focused on the approach run was important, and it was preferable to instruct this in a way that lets children choose the number of steps of the approach depending on their individual ability. Finally, in the middle and upper grades, instructing the technique of landing with both legs and with both feet set was important. Appropriate landing skills should be proactively taught starting from the lower grades of elementary school.</p> <p>The results collectively indicate that in long jump instruction in elementary school physical education, it is preferable to design classes focused on improving the skills of the approach run and the landing. Additionally, in the upper grades, long jump does not need to be practiced as a single subject, but can also be practiced in parallel with another athletic event.</p>	

氏 名	陳 洋明
学 位 の 種 類	博士（体育科学）
報 告 番 号	乙 第42号
学位授与年月日	平成29年3月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究 ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー
論文審査委員	（主査）教 授 池田 延行 （副査）教 授 田原 淳子 （副査）教 授 近藤 智靖（日本体育大学児童スポーツ教育学部）

博士論文審査結果の要旨

小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究
ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー

陳 洋明

平成29年 2月20日

国士舘大学

学 長 佐藤 圭一 殿

主任審査員

氏 名 池 田 延 行



論文審査結果の要旨

学位申請者名	陳 洋明	申請日	平成28年11月10日
学位論文題目	小学校体育の走り幅跳びにおける指導内容の体系化に関する研究 ーリズムアップ助走を中心とした授業実践を通してー		
最 終 学 歴	国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科修了		
論 文 審 査 結 果 の 要 旨	<p>研究目的 小学校の低学年・中学年・高学年の発達段階に応じた走り幅跳びの新たな授業内容の成果を具体的な授業実践を通して検証するとともに、小学校における走り幅跳びの指導内容の体系化を図る。</p> <p>研究方法 走り幅跳びの助走局面に着目した「リズムアップ幅跳び」を新たに提案し、具体的な授業実践を行い、その授業実践を観察的評価基準を基に分析することを通して、研究目的に迫っている。</p> <p>研究結果 小学校の走り幅跳びにおいて、「リズムアップ幅跳び」を中心的な指導内容として提示することの成果が示されるとともに、指導内容の体系化への提言もみられた。また、投種目との2種競技の提示など、走り幅跳びの授業内容の多様な扱いの可能性も示された。</p> <p>評価判定 小学校での走り幅跳び指導について、「リズムアップ幅跳び」という新たな指導内容の有効性を精緻な授業分析手法によって実証したことは優れた研究論文として評価できる。また、「リズムアップ幅跳び」の実践を通して、小学校での発達段階に応じた「走り幅跳び」の指導内容の体系化にも独自の提言がみられている。加えて、「投種目との2種競技」の提案という走り幅跳び指導の幅広い活動内容も提示している。これらの論文内容は、小学校での「走り幅跳び指導」に新たな内容及び方法を提示するものとして高く評価できる。</p> <p>従って、博士論文としての条件を満たしていると判断できる。</p>		

※2000字程度